

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ 69 — イエス様に従うこと、願うこと』

武田真治牧師

イザヤ書 51:9~12 ルカ福音書 8:32~39

今日の箇所は、イエス様が「ガリラヤの向こう岸にあるゲラサ人（＝異邦の民）の地方へ」と足を延ばされた時の出来事の続きです。異邦の民へとみ言葉を伝えることが《イエス様の意志》であり、キリスト教が世界伝道へと歩み出す契機となった出来事でした。ただ、それだけに“反発”も大きかったことも、一方でこの出来事は教えてくれています。

この場所で、悪霊に取りつかれていた男の人から、イエス様が悪霊を追い出されたのですが、その際「悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、願った」のでした。そして、その辺りの山にいた豚たちの中に入る許しを願うと、イエスがお許しになった結果、「悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれ死んだ」のでした。この出来事は、取り付いた相手を“滅ぼすところまで追い込む”という悪霊の正体をよく示している出来事であり、ある意味でイエス様はそれを全うさせてあげたとも言えます。

ただし、問題は、その様子を目の当たりにしたゲラサの町の人々の反応でした。この「成り行きを見ていた人たちが」町の人々にこの次第を知らせた結果、「ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたい」と、イエスに願った」という態度を示したのでした。彼らの目の前には「悪霊どもを追い出してもらった人が、服を着、正気になってイエスの足もとに座っている」にもかかわらず。

私共であれば、イエス様の力強い“癒しの業”を見て、更に自分たちの病や悪しきものを追い出して欲しいと願うのではないのでしょうか？ 或いは、イエス様という方をこの際、もっと知りたい、もっと奇跡を見せて欲しいと考えるのではないのでは？ しかし、彼らは「出て行け」と頼んでいるのです。どうしてでしょう。聖書では「彼らはすっかり恐れに取りつかれていたのである」とあります。イエス様のあまりの力ある言葉と業に、そしてその結果の甚大さに“恐れ”をな

してしまい、とうてい受け入れられないと判断したのでしょう。せっかく、イエス様が異邦人への伝道をと志されたのに、当人たちはまだまだ受け入れる態勢が整ってはいなかったと言えます。結局「イエスは舟に乗って帰ろうとされた」のでした。彼らは絶好のチャンスを逃したと言えます。

ただ、その癒してもらった人だけはイエス様の「お供をしたいとしきりに願った」のでした。当然の反応でしょう。しかし、イエス様は『自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになさったことを話して聞かせなさい』と命じられたのです。一見、厳しく思いますが、彼こそ異邦の地ゲラサ出身であり、彼がその地で同朋に伝道していくなら、人々は耳を傾けるということではないでしょうか。それこそ《郷里伝道》と言えます。納得した彼は「イエスが自分にしてくださったことをことごとく町中に言い広めた」のでした。こうして、この地に“信仰が根付く素地”を作って行ったのでした。

【今週の集会】

- * 聖書研究・祈祷会 I. 3月11日(水) 20:00
- II. 3月12日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記
 祈祷主題: お茶の会奉仕を覚えて
 担当者: (水) HS (木) KK
 祈りに覚える人 KHさん KNさん

【教勢報告】

主日礼拝 男15 女50 計65
 祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男1 女6 計7
 日曜学校 幼稚科5 小中科10 計15

【次週礼拝】

3月15日(日)
 聖書: イザヤ書 25:7~10
 ルカによる福音書 8:49~56
 説教: 「ルカ71—娘よ、起きなさい」武田真治牧師
 讃美歌: 300(1)、32、聖歌隊(438)、304、453、28(1)

【次週当番表】

司式: HN長老 奏楽: MA 礼拝: IK長老
 献金: OY OH 受付: IY YS
 会堂準備: KK KT TR TN
 NE

看板: ST 週報: YS お花: HM

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・求道者会
 礼拝後: ・お茶の会 ・日曜学校教師会 ・幼稚園理事会
 ・オリブの葉編集委員会

2026年 3月 8日

日本キリスト教団 上尾合同教会
 牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
 TEL&FAX 048-771-6549